

森林環境保全基金運営委員による平成28年度森林環境税活用事業評価(H29年6月8日実施)の集計及び総合評価

事業No.	資料ページ	1	公益林保全整備事業(木材増産推進課)	
集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価
1	● 現状のまま継続	8	<p>・実績の急な減少(達成率90%台→64%)は問題である。減少の原因として、「対象林齢の資源構成とのズレ」や「搬出間伐へのシフト」「労働力不足」をあげているが、県内の森林状況を踏まえると、まだまだ奥地の路網整備が不十分な場所での間伐遅れ林分などが多くあり、対象とすべき事業地は多いと思われる。については、事業効果の向上を目指して、「所有者・後継者への働きかけの工夫(既存ルートの見直し、新規アプローチ)」を行うほか、「路網整備」などの他課との連携なども含めて、事業地の掘り起こしに強く取り組む必要がある。</p> <p>・山奥の作業道等が無く、搬出ができない地域の保安林の保育間伐事業は未だ多くあると思うので、関係機関で幅広くPRをして頂き、健全な森づくりに寄与してもらいたい。</p> <p>・良い取組だと思う。現状のまま継続を支持する。</p> <p>・本来なら事業No.1と2の保育間伐の事業を拡大して欲しいが、現在そういう状況ではないので、継続はしていただきたい。</p>	●
	○ 事業を拡大	0		
	○ 事業を縮小	0		
	○ 休廃止を検討	0		
	○ 改善のうえ継続	0		
事業No.	資料ページ	3	みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)	
集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価
2	● 現状のまま継続	7	<p>・実績の急激な減少(達成率44%)は大きな問題である。報告にあるように「搬出間伐へのシフト」の影響は大きいと思われる。また、所有者に多少でも還元できる搬出間伐を重視している事業体の方針転換を願うことは、県の増産計画の方針もあり困難であろう。加えて「対象林齢の資源構成とのズレ」の大きさは「公益林保全整備事業」以上であり、事業地の掘り起こしは一層の困難さを増すと思われる。このような状況を鑑みれば、新植地が生育し対象年齢となるまでの間は、事業縮小を検討すべきではないかと思われる。</p> <p>・予算100%消化を目指してほしい。</p> <p>・事業が減少している理由は理解ができるが、まだまだ徐間伐ができていない山が多く、森林組合等を通じて、住民の集まる場での説明会やパンフレット配布の努力が必要だと思う。</p> <p>・良い取組だと思うので、現状のまま継続を支持する。</p>	●
	○ 事業を拡大	0		
	● 事業を縮小	1		
	○ 休廃止を検討	0		
	○ 改善のうえ継続	0		
事業No.	資料ページ	5	指定管理鳥獣等捕獲事業(鳥獣対策課)	
集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価
3	● 現状のまま継続	3	<p>・効率が良くないので、全面的に見直しの必要がある。H28年度は捕獲期間にも問題があったが、元々高い効果を得るのは難しいのではないかと思う。森林環境税の補助はワナにシフトしたほうが効率的と考える。</p> <p>・捕獲頭数1頭のみという実績の理由が、「国補事業の形式指定により、事前・事後の密度調査を実施しなければならず、入札対応などにより猟期が遅れ、シカが他所へ移動し頭数が急減する冬期に実施せざるを得なかった」ことは、事業の効果を考えるうえで大きな問題である。担当課が検討している「罾猟の活用」はもちろんのこと、国への働きかけも必要かもしれないが、事前・事後調査の間に狩猟をする形式は維持しても、「狩猟効果のあがる時期に実施する工夫」を施すべきである。</p> <p>・次年度に本年度と同じ成果であれば見直しが必要</p> <p>・今回の鹿の捕獲困難地域の事業は時期的な事などで、事業としては芳しい成果が見られなかったと思うため、今後は今までどおりの罾に専念してもらいたい。</p> <p>・良い取組だと思うので、現状のまま継続を支持する。</p>	●
	● 事業を拡大	1		
	○ 事業を縮小	0		
	● 休廃止を検討	1		
	● 改善のうえ継続	3		
事業No.	資料ページ	7	希少野生植物食害対策事業(環境共生課)	
集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価
4	● 現状のまま継続	6	<p>・長期間にわたって続けて来た成果が少しずつあがってきていると思われる。継続が重要であるので、今後も続けて欲しい事業である。これからは、既設の柵の修理に留意していかなければならない。</p> <p>・評価は、「現状のまま継続」としたが、この事業は保護個所の増加に伴い、柵の管理やモニタリング費用など、ランニングコストが嵩む構造を持っている。事業の将来を考えると、保護植物に対して現在行っている「生息域での柵設置」の他、牧野植物園など専門機関での「種保存のための移植・保育」等の取組も並行して行い、保護経費の上昇抑制ができる構造に改良すべきである。</p> <p>・こつこつと着実に成果をあげているので、現状のまま継続をして頂き、多くの希少野生植物を守ってもらいたい。</p> <p>・良い取組だと思うので、現状のまま継続を支持する。</p>	●
	● 事業を拡大	2		
	○ 事業を縮小	0		
	○ 休廃止を検討	0		
	○ 改善のうえ継続	0		
事業No.	資料ページ	9	環境学習推進事業(生涯学習課)	
集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価
5	● 現状のまま継続	8	<p>・参加人数を確保できるよう工夫していただきたい。</p> <p>・事業内容について、「幼児教育への対象の拡大」や「申請時の森林体験の確認」、「研修修了者の技術向上機会への配慮」など、委員会の指摘を上手に取り込んで改善している。「HPの活用」についても、利用者分析などに取り組んでおり、今後の利用向上への動きも期待される。当事業は、森林教育の基盤づくりに位置付けられるものであり、事業成果の波及効果は大きく、「研修者増加に向けた取組強化」が求められる。一般市民を対象とするだけでなく、教員免許更新講習などとの連携(カリキュラムに含めるなど)も検討してはどうか。</p> <p>・自然体験活動や環境学習を推進する為に指導者等の育成が不可欠なので、あらゆる場所での啓発活動を行い、参加者を増やしてもらいたい。</p> <p>・良い取組だと思うので、現状のまま継続を支持する。</p>	●
	○ 事業を拡大	0		
	○ 事業を縮小	0		
	○ 休廃止を検討	0		
	○ 改善のうえ継続	0		

事業No.	資料ページ	11	高校生森林環境理解事業(高等学校課)	
6	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等	
	● 現状のまま継続	7	<p>見直しの具体的方策に関する意見等</p> <p>● 総合評価</p> <p>・高校生の森林環境理解の取組が、校内に広がるのみならず、園児・児童やその保護者まで広がりを見せていることは素晴らしい。改善点として、<u>森林環境税の認知度向上のためにも、この事業が森林環境税活用事業であることを様々な場面でPRされるような仕掛け(購入備品への森林環境税マーク明記など)をするのはどうか。</u></p> <p>・実施校が定着している事は良い事であるが、西部方面に偏っているため、県内でバランスの取れた状態になる様に、学校関係に働きかけて頂く事と実施されている学校が何かの機会に交流発表会等をしてもらう事で、より良くなるのではないかと考える。</p> <p>・毎年の提案ですが、<u>実施予定校を増やしてはどうか。</u>また、嶺北高校をはじめ需要があると思うが。</p>	
	● 事業を拡大	1		
	○ 事業を縮小			
	○ 休廃止を検討			
	○ 改善のうえ継続			
事業No.	資料ページ	13		
7	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等	
	● 現状のまま継続	5	<p>見直しの具体的方策に関する意見等</p> <p>● 総合評価</p> <p>・「学生の希望者が多い」こと、「受講学生の主体性等に良い効果が表れていること」「林業関係への就職選択者の増加」などを踏まえると、事業の効果は高い。課題としては、他の委員の指摘にもあったが、<u>林業地の中には嶺北など実施校のない地域がまだあり、そういった地域での実施校を開拓する必要がある。</u></p> <p>・需要があれば拡大すべきである。</p> <p>・実施校がほぼ定着し、多くの学生が参加して資格を得ているが、<u>まだまだ参加されていない林業等が盛んな地域の学校も多くあると思うので、学校等にも出向いてもっとPRをしてもらいたい参加校を増やしてもらいたい。</u></p> <p>・良い取組だと思うので、現状のまま継続を支持する。</p>	
	● 事業を拡大	3		
	○ 事業を縮小			
	○ 休廃止を検討			
	○ 改善のうえ継続			
事業No.	資料ページ	15		
8	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等	
	● 現状のまま継続	7	<p>見直しの具体的方策に関する意見等</p> <p>● 総合評価</p> <p>・長期にわたって実施することが大切と思われる事業である。今後も継続してほしい。</p> <p>・平成28年度の実績は学校数、市町村数ともに微減であったが、平成29年度で22市町村67校の内示を確保しており、平成28年度中に委員会の指摘を取り込んで事業の掘り起こしを行った成果が如実に表れている。<u>取組の広がりを支えるよう事業の拡大が必要であろう。</u></p> <p>・できれば<u>全市町村の小学校で実施をしてもらう様にPRの努力をしてもらいたい。</u></p> <p>・良い取組だと思うので、現状のまま継続を支持する。</p>	
	● 事業を拡大	1		
	○ 事業を縮小			
	○ 休廃止を検討			
	○ 改善のうえ継続			
事業No.	資料ページ	17		
9-1	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等	
	● 現状のまま継続	5	<p>見直しの具体的方策に関する意見等</p> <p>● 総合評価</p> <p>・森林環境税の認知度が上がらない現状では、広報は非常に重要である。<u>パンフレットの形態に限らず、時代に合わせた広報の形を探っていきたい。</u></p> <p>・チラシやパンフレットなど紙媒体での広報は、<u>市民の紙媒体離れが進んでいる中で、これまでのような効果が期待しにくくなっていると思われる。</u>また、「<u>成果指標</u>」として「<u>認知度</u>」などの広報効果を示す指標を確保できず、<u>効果の確認が出来ないことも問題である。</u>このような状況下では、他の直接的な広報が期待できる事業に力点を置き、草の根活動で広報力を高めていく方が望ましいと思われる。事業廃止も含めて検討すべきと考える。一例として、こうち山の日推進事業等のイベント等で事業をさせてもらう方や参加される方に対して、パンフレットを配布し、森林環境税の事を身をもって理解してもらう事で、口伝えに広がって行く様に対応を考えてもらいたい。</p> <p>・今後、予算拡大が見込まれる可能性が高いとして、県民に対するPRIに力を加えるのは良いかもしれない。</p> <p>・良い取組だと思うので、現状のまま継続を支持する。</p>	
	● 事業を拡大	2		
	○ 事業を縮小			
	● 休廃止を検討	1		
	○ 改善のうえ継続			
事業No.	資料ページ	19		
9-2	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等	
	● 現状のまま継続	7	<p>見直しの具体的方策に関する意見等</p> <p>● 総合評価</p> <p>・mamoriは女性や子どもに広く浸透してきて、評価も高い。今後は読者層を広げるような工夫も望まれる。</p> <p>・情報誌の評価はアンケートの結果などからも高いようであり、認知度も小中学校での配布実施以降、ターゲットとしている子育て世代において徐々に高まってきているように思う。内容は、読み物としても十分面白く、森林に関わるテーマを分かり易くかみ砕いて紹介しており、森林教育が不十分な義務教育の欠点をしっかり補っている。また、テーマが時期ものではない点も良く、古い巻でも内容に古さがないのが良い。</p> <p>・mamoriの冊子を通じて幅広く、徐々に理解はできてきていると思う。今後はmamoriの記事内容を通して自ら森に入りたくなる、森林や環境関係を勉強をしたくなるような内容にグレードアップしてもらいたい。</p> <p>・良い取組だと思うので、現状のまま継続を支持する。</p>	
	● 事業を拡大	1		
	○ 事業を縮小			
	○ 休廃止を検討			
	○ 改善のうえ継続			
事業No.	資料ページ	21		
9-3	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等	
	● 現状のまま継続	7	<p>見直しの具体的方策に関する意見等</p> <p>● 総合評価</p> <p>・座談会については、内容は充実していたので、もっと多くの人に来てもらいたかった。モニターツアーは参加者が少なかったため、次回にはこの結果を踏まえて参加者を集める工夫をしたい。</p> <p>・今回の地域座談会は「子育て世代の参加」を意識して取り組んだが、初めての取組ということもあり、思惑通りにはいかなかったようだが、開催することに満足するだけではなく、「参加者の立場で開催する姿勢への転換」は、非常に大きな一歩だったかと思う。次回の実施時には今回の失敗を踏まえつつ、参加者の立場に立った企画により、参加者の増加を実現して欲しい。他方で、地域座談会の参加者数が伸び悩む中では、mamoriなどの広報誌を活用して、多面的に納税者の意見を徴収する仕組みにも一層取り組む必要があるように思う。</p> <p>・現状+原点に立ち戻り、自らが払っている森林環境税によっていろいろと取り組んで実施されている事業をスライド等で見てもらい、その後、グループに分かれてディスカッション等を行う方法で内容を知ってもらい、森林環境税の存続等についての意見を頂く事が大事だと思う。</p> <p>・良い取組だと思うので、現状のまま継続を支持する。</p>	
	○ 事業を拡大			
	○ 事業を縮小			
	○ 休廃止を検討			
	● 改善のうえ継続	1		

事業No.	資料ページ	23	森林環境税企業アンケート実施委託料(林業環境政策課)			
9-4	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価	
	●	現状のまま継続	6	<p>・ランダムに抽出した会社を対象にアンケートを行ったので、回収率が低かったが、内容は母集団を反映する回答が得られたと考えられる。</p> <p>・企業への意見聴取は重要な取組であり、今後も継続すべきである。しかし、回答率が24%と低い点は改善する必要がある。回答率の低さは、一般的に「アンケート回答にメリットが感じられない」ことが理由とされる。「メリット」とは、「経済的メリット(自社の利益にかなうという認識)」の他にも、「社会的メリット(社会貢献になるという認識)」などもあり、そういう認識に繋げるためには「アンケートの結果(自社の意見)が何らかの変化に繋がる」という認識が根底に必要である。その点で、設問については、「利用の意図がつかめない」ことが問題として考えられる。また、「回答率が低かったから結果は参考にしにくい」のであれば、回答する側の意欲は今後より低下することが懸念される。「企業負担の課税方法の再検討のためのアンケート」など、明確な利用意図を前面に出せるアンケートを行うべきではないか。また、その際には対象とする県内企業についても、無作為抽出ではなく、一定の意図をもって規模などで選定したり、逆に全企業を対象とするなどの配慮が必要であると思われる。</p> <p>・2年連続の必要はない。</p> <p>・ランダムに企業を選ぶ方法も良いのですが、業種別に企業を選びアンケートを取る方法で業種によつての認識を知る事ができるのではないかな。</p> <p>・良い取組だと思つので、現状のまま継続を支持する。</p>	●	
	○	事業を拡大				
	○	事業を縮小				
	●	休廃止を検討	1			
●	改善のうえ継続	1				
事業No.	資料ページ	25	こうち山の日県民参加支援事業委託料(林業環境政策課)			
10-1	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価	
	●	現状のまま継続	5	<p>・当事業の問題は、HP利用者の少なさである。ボランティア団体3団体と林業事務所1つの計4つというのは、少なすぎる。これは、「利用側にメリットが少ない」ということであろうから、ボランティア組織の人手不足を補う形がとれるよう、県内にある「ピッピネット」や「activo(アクティブ)」などの他のボランティアネットワークのHPとの連携を進めるなどして、新規ボランティアの取り込みを図る仕掛けが必要なのではないか。</p> <p>・「森、ひと、こうち」応援ネットのホームページが知られてないので、あらゆる所でPRして参加者を増やしてもらいたい。</p> <p>・私の考えが問題かも知れませんが、ボランティアにほとんど期待していない。</p> <p>・良い取組だと思つので、現状のまま継続を支持する。</p>	●	
	●	事業を拡大	1			
	●	事業を縮小	1			
	○	休廃止を検討				
○	改善のうえ継続					
事業No.	資料ページ	27	こうち山の日推進事業費補助金(林業環境政策課)			
10-2	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価	
	●	現状のまま継続	7	<p>・事業実施団体の掘り起こし努力が報われ、平成27年の24団体から36団体へと大きく増加したことは素晴らしい。多様な主体による取組であるほど、地域的にも対象年齢的にも、多様な層の県民に森林と触れ合う機会、そして森林環境税を意識する機会を提供できたものと思う。「成果指標」は「県民参加人数」のみとなっているが、今後は「イベント開催回数」もしくは「参加団体数」の追加を検討してはどうか。</p> <p>・山の日が多くの方にPRできたという事で現状を継続してもらいたい。</p> <p>・良い取組だと思つので、現状のまま継続を支持する。</p>	●	
	●	事業を拡大	1			
	○	事業を縮小				
	○	休廃止を検討				
○	改善のうえ継続					
事業No.	資料ページ	29	運営委員会等開催事務費(林業環境政策課)			
11	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価	
	●	現状のまま継続	8	<p>・視察が実施出来なかったことは残念であった。</p> <p>・主な取組は運営会議の開催であるが、事業効果を高めるには、委員一人一人の真摯な取組が不可欠であり、一委員として今後ともしっかりと取り組んでいくものである。事務局および関連部局には、委員が十分に事業を把握して判断できるよう、事業評価に必要な資料・情報の用意を今後とも続けて頂きたい。</p> <p>・現場を見てみたいので、視察をお願いしたい。</p>	●	
	○	事業を拡大				
	○	事業を縮小				
	○	休廃止を検討				
○	改善のうえ継続					
事業No.	資料ページ	31	森林保全作業安全研修(林業環境政策課)			
12	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価	
	●	現状のまま継続	6	<p>・必要な事業だと思つので、利用しやすくなるよう、関係機関と調整を行っていただきたい。</p> <p>・森林技術・安全研修に関しては、他課の取組との連携が重要である。特に、類似の取組を担っている場合は、担当課それぞれが県全体の業務の効率化を念頭に、成果の確保にこだわらず統廃合を含め、効果を下げず最もコストが低い仕組みを検討する姿勢が大事である。その点を踏まえ、平成29年度からの事業統合の判断を高く評価する。他方で、「森林研修案内への記載漏れ」などの事務の連携不足による失敗については、対象県民の大きな不利益となったことと思う。案内情報の伝達は事業成果を左右する重要業務であり、2度目のミスが無いよう、他の業務においても確認を徹底して欲しい。</p> <p>・自伐林業を目指す方やこれから林業関係の事をやってみようという方には非常に良い研修なので、多くの方へPRをしてもらいたい。</p> <p>・縮小とまでは思っていないが、受益者負担でもよいと感じている。</p> <p>・良い取組だと思つので、現状のまま継続を支持する。</p>	●	
	●	事業を拡大	1			
	○	事業を縮小				
	○	休廃止を検討				
●	改善のうえ継続	1				
事業No.	資料ページ	33	木の香るまちづくり推進事業費補助金(木材利用推進課)			
13	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等		総合評価	
	●	現状のまま継続	4	<p>・県内の目につくところに少しずつ木質化が進んで来た。今後、県産材利用に重点を置いて木質化を進めて欲しい。</p> <p>・当事業は、公共施設における木質化に大きく貢献していると思われる。改善すべき点は、前年度の要望調査にあがってきたものだけに事業案内を送った点である。要望調査の際にそうした特別扱いについての記載をしていない場合はそれ自体も問題ではあるが、記載していたとしても対象施設を担当課の判断で絞り込む行為であり、事業の趣旨に反してはいないだろうか。機会平等を軽視する姿勢に懸念を感じる。</p> <p>・実績を見てみると公立の小中学校が数の割には少ないので、学校関係に周知を図ってもらいたい。</p> <p>・県産材のPRとしては、最も効果があるように思う。</p> <p>・良い取組だと思つので、現状のまま継続を支持する。</p>	●	
	●	事業を拡大	3			
	○	事業を縮小				
	○	休廃止を検討				
●	改善のうえ継続	1				